



2019-2020年度 主題

国際会長： Jennifer Jones 「より良い明日のために今日を築く」
 アジア太平洋地域会長： “Action!”
 田中 博之（東京多摩みなみ）
 東日本区理事： 山田 敏明（十勝） 「勇気ある変革、愛ある行動！」
 湘南・沖縄部長： 森田 幸二郎（沖縄） 「ワイズを社会に広める再構築をする」
 クラブ会長： 今城 高之 「奉仕する、みんなちがって みんないい」
 ～まずは隣人から～



今月の聖句

「…いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。

わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。」

フィリピ4：12-13

（相賀先生メッセージ）

コロナウイルスによる脅威が過ぎ去ることを祈り願いつつ、つづきクラブをはじめ心に覚える方々の歩みもまたすべて守られてまいりますよう、主のお導きをお祈りいたします。

相賀昇

2020年3月本例会

新型コロナウイルス感染拡大のあおりで、2月に引き続き、3月も事務例会、本例会、TKBお仕事をなど、全てのクラブ行事を中止せざるを得なくなりました。

今年度は、昨秋の移動例会も大型台風の襲来によりキャンセルとなるなど、何となく恵まれない年度となってしまいました。

しかし、「災い転じて福となす」の言葉もあります。望みもせず与えられた時間を有効に使い、自分のこと、クラブのことなど、これまでのことを振り返り、また、残る3か月の展望を描いたりする時間に当てたいと思っています。

皆様もくれぐれもご自愛されて再会の時を待ち望みましょう。

会長 今城 高之

巻頭メッセージ

山添 訓

人に寄り添う

3月になると、年度末に向けてのまとめや新年度準備に追われる日々が続きますが、今年は、新型コロナウイルス感染予防・感染拡大防止への対応があり、日々変化がある中で対応をしております。日々のニュースからの情報では、終息する感じはなく、今後どのようになっていくのが不安になりますが、手洗い、うがいなど、自分ができることを行うようにしていくことが大切と思い、日々過ごしております。新型コロナウイルスにより困難な中にある方々が一日も早く回復されることをお祈りいたします。

3月になると東日本大震災のことは、忘れず思い出します。2011年4月1日入会式が終わり、その日の夜にバスで気仙沼市に行きました。まだ震災から3週間後でした。2004年中越地震でボランティアバスを他団体、企業の協力で行った時につながっていた方々と共に気仙沼市の消防署の慰問、翌日は避難所でコーヒーとお菓子を振る舞うコーナーを設けました。被災された方々が、震災後、ゆっくり温かいコーヒーやお菓子を飲んだり食べたりする機会がないだろうということからの支援でした。あたりまえですが、避難所は、何か重苦しい雰囲気があり、私自身も被災された方々に何て声を掛けたらいいのか分からなかったことを覚えております。コーヒーコーナーには、ご婦人を中心に多くの方が利用してくださいました。「久しぶりに温かいおいしいコーヒーを飲んだわ」「何かほっとするわね」という声を多く聞きました。3週間後ということもあったかと思いますが、被災された時のことを涙ながらお話しして下さる方もいらっしゃいました。ただ聞くことしかできませんでしたが、他の方から、お話しして下さった方は、被災後、あまりお話しされることがなかったことを聞きました。1杯のコーヒーをきっかけに、いっぱいになっていた悲しみの心が少しでも減り、前を向いて歩まれる気持ちになってもらえたらと思いました。私は、牧師の家庭に生まれ育ち、小さい時から聖書の話しをきき、イエス・キリストの生き方に触れてきました。気仙沼での経験は、自分の弱さと無力さを感じました。イエスさまが人に寄り添うことを行った姿を改めて思い返し、イエスさまの愛の深さを感じました。

Y MCAでの働きも、入職後これまで、人に寄り添うことを大切に働いてきました。何が正解かは、分かりませんが、3月、東日本大震災で被災された方々のことに思いを寄せつつ、これからもイエス・キリストの生き方に基づいて働きをしていきたいと思っております。

（完）



北Y便り

横浜北YMCA 館長 山中 奈子



三寒四温とはよく言ったもので、昨日までの寒さがうそのようです。あっという間に梅が散ってしまい、もう桜のつぼみも大きく膨れています。今年は桜の咲くころが例年より早いとのこと。我が家の末っ子はこの春小学校を卒業します。残念ながらコロナウイルスの影響で卒業式は先生と卒業生のみでの式となるようです。しかし、9年前の東日本大震災の時、卒業式を迎えられなかった6年生に比べれば、どんなに幸せなことかと感じます。逆に言えば、こんな卒業式を迎えられる子どもたちはラッキーであると考えられます。本来であれば学校は子どもと先生たちの社会です。そこに歌や来賓はおまけでついてくるものであり、本来の形に戻ったといえ、それまでのことかなと考えるようになりました。

YMCAも3月いっぱいまで一部のクラスを除いてお休みになっています。子どもたちの声の聞こえないYMCAは本当に寂しく、寒ささえ感じます。スタッフは今「ウエルネスデリバリー」や「今日のこんなときどうする？」など様々なコンテンツを活用してWEB配信を行っています。運動不足になりそうな子どもたちに家庭でできる動画を配信したり、トライアングルクラスで実施している「こんなときどうする？」のペーパーを毎日配信したりしています。この場に子どもたちがいなくとも、目の前にいるであろう子どもたちにエールを送っているのです。このような活動が社会に向けてのYMCAアピールになるのだと思います。

横浜北YMCAに配属になって12年、館長として3年、つづきワイズ&ウィンメンズクラブの皆様には大変お世話になりました。至らない点も多くありましたが、皆様のサポートのおかげで本当に楽しい時間を送ることができました。特に本例会のあとのガブリエル…忘れられません。富士山例会でのBBQやYMCA祭などで、走馬灯のように浮かんでいきます。4月からは湘南とつかYMCAでの働きを担います。会員総会やクリスマス会など会場となることが多くあります。また皆さんにお会いできる日を楽しみにしております。本当にありがとうございました。



ウエルネスデリバリー

スマホのQRコードリーダーでデータが取り込めます。



「TKBの折り紙誕生日カード作り」

今年も3.11がやってきました。東日本大震災から9年、、、せめて保育所・老人ホームの皆さんにと、折り紙誕生日カード作りを始めました。今月はお雛様のカードです。林ワイズ夫妻や教会の友などの協力で毎月カードを作っています。あまり折り紙の得意でない人も教え合って楽しくやっています。ボケ防止にもなります。また作業終了のお茶タイムは、いろいろなお話をして暖かいときとなります。被災地の人たちとも、みんな繋がっています。

岡田美和



（3月のカード）

（2月のデータ）

| | | | | | | |
|------|----|--------|-----|--------|----|---------|
| 例会出席 | 一名 | 在籍会員数 | 18名 | 各種記録 | 前月 | 年度累計 |
| メンバー | 一名 | 月間出席者数 | 一名 | 使用済み切手 | 0 | 0 |
| ビジター | 一名 | メーキャップ | 一名 | スマイル | 0 | 25,000円 |
| ゲスト | 一名 | 月間出席率 | — % | | | |



《転載》 東日本区“Change ! 2020”のニュースレターに掲載された、当クラブ鈴木茂さんへのインタビュー記事を転載します。

やれば何でもできる!! シニア中心のクラブ 横浜つづきクラブ 鈴木 茂さんへのインタビュー

▼クラブのメンバーの概要を教えてください。

「現在、担当主事を除くと男性8名、女性9名、合計17名で平均年齢は約76歳です。夫婦ともメンバーになっているのは、休会中の一人を入れると5組です。」

▼例会などについて教えてください。

「月2回、本例会と事務例会（役員会）で、いずれも全員が出席義務者になっています。平均出席率は85%前後です。本例会は、全員自宅から1時間以内にある都筑区の社会福祉協議会拠点『かけはし都筑』で行っています。両例会とも食事はなく、例会後に近所の居酒屋等で会食懇親会を行っています。」

▼例会を除く活動の概要を教えてください。

「①『You & I コンサート』障害者とともに楽しむクラシックコンサートで年1回、今年で第10回目。来場者は障害者を含めて約400人。わがクラブが中心となって横浜YMCA、地元の4つのNPO法人と共に運営委員会を組織し、横浜市教育委員会、都筑区社会福祉協議会の後援を受けて開催。

②『東日本大震災被災地支援活動』津波で被災した宮城県亘理郡山元町の特別養護老人ホームと保育園に年1回、2～3名のメンバーが慰問訪問。石巻広域クラブ、仙台YMCAや東京グリーンクラブ、東京武蔵野多摩クラブの皆さんにもお手伝いをいただいています。上記2つの施設及び南相馬市の「原町こども園」の園児、入居者へ毎月20枚ほど手作りのお誕生日カードを女性メンバーTKB（つづきの可愛いばあちゃん【写真】）が作成、送付。

③ 都筑区内にあるグループホームにおいて8年前から月2回（男女チームが各1回）の夕食作りと週1回の送迎ボランティア。

④ 社会福祉協議会に加盟しており、同協議会が主催する会

合に担当者が出席して地域奉仕活動に参加。」

▼ワイズと教会との折り合いについて如何ですか。

「17名中14名が教会員ですが、活動がバッティングするときは、ワイズの奉仕活動にある程度の人数を確保するように相談して対応しています。」

▼YMCAとの関係についてお聞かせください。

「7名が横浜YMCAの役員・委員として運営に参加。YMCAのイベントには欠かさず参加。2月の本例会は北YMCAのスタッフとの交流懇親会とし、12月の本例会は横浜YMCAのクリスマス祝会に合流。」

▼活発な活動の源泉と今後の課題は如何ですか。

「私の個人的な意見では、メンバーの大半が高齢者ですから無理せず、お互いに思いやり、いたわり合って、優しさのあるクラブ作りにつとめることが活動を長続きさせる秘訣だと思います。今後の最大課題は会員増強と理解しています。定年後の60歳～70歳が狙い目と考えます。クラブ員としてアタックしたいと考える人をリストアップし、一覧表にまとめ、担当者や勧誘方策をクラブとして検討し、毎月の事務例会でフォローする方式を考え、2022年にはメンバーを20名とし、その平均年齢を現状水準に留めればと考えています。」

▼会員増強の観点から、ワイズ活動とクリスチャニティーとの関係をどのように考えていますか。

「ワイズ活動の基盤を国際憲法が掲げている通り、キリストの教えの実践に置くことに賛成します。しかし、ワイズの活動の基盤をキリスト教に置くことと、例会等の形式として聖書朗読や祈祷等の礼拝要素を採り入れることは、全く別個の問題であると思います。特に会員増強に真剣に取り組むのであれば、新規クラブであれ、既存クラブであれ、キリスト教になじみの薄い日本社会では、例会形式の宗教的要素はできるだけ排除することが望ましいと考えます。」

▼ありがとうございました。

(完)

《異動》

横浜YMCAの人事異動があり、これまで横浜北YMCAの館長で、当クラブのアイドル(?)ともいべき山中奈子さんが、新年度より「湘南とつかYMCA」の館長として転出され、代わりに、現在「三浦YMCAグローバルエコヴィレッジ」館長の鴨下純久（カモシタ ヨシヒサ）さんが横浜北YMCAの館長に就任されます。

なお、鴨下さんは4月より当クラブの担当主事の任に就かれ、クラブのメンバーとしてご活躍いただくこととなります。

4月の本例会で鴨下主事をご紹介できると思います。

《ワイズメンズクラブ国際協会会長のメッセージ》

私たちは今、歴史の中で極めて興味深く、かつ挑戦的な時間にあります。僅か数か月前まで、私たちは新型のコロナウィルスSARS-CoV-2や、それが引き起こす疾患COVID-19について何も知りませんでしたが、今や他のあらゆるニュース項目を凌ぐものとなっています。Y's国際協会は、この世界的に感染が広がる疾患との戦いに努力する世界保健機関(WHO)ならびに各国に対する連帯の意を表明します。

このCOVID-19は私たちの活動地域、特にアジアパシフィックと韓国に影響を与えています。クラブ会合のための旅行は制限され、新クラブのチャーター式典は延期されました。無活動は停滞を招くとの考えがあり、私たちはこれに警戒を怠ってはなりません。

《寄稿》 横浜YMCAとミャンマー

辻 剛

・今年に入って終活の一環として書斎の断捨離を始めた。先日蔵書の整理をしていたところ、本棚の片隅に「ぶどうの木のかげで—今日の祈り、明日のうた—」(小塩 節著)を見つけた。約一年前に吉田明弘ワイズ(東京西クラブ)から横浜YMCAのことが載っている、と教えられて、すぐさまネットで購入した本である。



そのうち読もうと思いつきながら忙しさにかまけて読まずにいた。今回、新型コロナウイルスのおかげ(?)で時間ができたので一気に読んだ。小塩さんの著書を読んだことがある方は多いと思うが、この本は第1刷が2019年5月30日ですから比較的最近の発行です。短い5~6頁分のエッセイ

(過去様々な雑誌・会誌などに発表されたものを含め)30数編が約200頁弱の中に収められています。少年時代の思い出、生命あるもの、ドイツの音楽家、詩人等々について、深い洞察・思いやり・優しさ・信仰などにとずいた珠玉の文章が綴られています。

・問題のエッセイのタイトルは「小さい者に仕えて—この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたのである—」(マタイによる福音書25章40節)。横浜YMCAに関する記述は以下のようなもの。「この計画を知った横浜YMCAが、毎年数千本の歯ブラシを寄付してくれたので『歯を磨きなさい。塩をつけるといいが、塩がなくても、何もつけなくてもいい』と言って配った。これは絶大な効果があった。」

・これだけではよく事情が呑み込めないゆえ、もう少し引用

させていただく。字数の制約もあり筆者の判断でかなりの省略にご理解を。「横須賀市内に、広瀬誠(1930-2005)という小児科医がいた。広瀬さんはある時偶然に一留学生からミャンマーに多い無医村の実情を聞いてショックを受けてさっそく友人の医師たちとチームを組み、忙しい身だから年末年始だけ自前の医療奉仕に出かけた。1992年から丸13年間。外科、内科、眼科、小児科、歯科に歯科技工士も加わり、合わせて10人、ヤンゴンから北へ400キロ、悪路を走ること15時間。イェジンという広大な無医村に入る。到着から撤収まで軍政府の許可は8時間。実際の医療時間は5時間だけ。長蛇の列をつくる何百何千人もの村人を相手に診察、治療、投薬、健康相談を実施した。」このあと上記でご紹介した横浜YMCAの記述が続く。13年間奉仕を続けたのち「村の診療所が建ち、ヤンゴン大学から医師の定期派遣も決まった。これであとの心配はないとなって、毎年2週間のこの奉仕を終えることにした。」

・2004年12月30日の早朝、いつものようにテントの前の草原に10人一同輪になって立ち、最後の礼拝を捧げた。広瀬さんが冒頭の聖句を朗読した。そして、祈った。「小さい私たちが、この13年間、最も小さい人々に仕えることを許されて、感謝いたします」と。小塩さんは、「この祈りの言葉に、真の意味がある。つまり奉仕とは、上からの立場で人に何かをしてやるのではなく、仕えさせていただくということ。そしてこの感謝こそ、本当の祈りである」と書いている。翌31日帰途についたが、広瀬さんは激痛を伴う穿孔による腹膜炎をおこし、翌日の2005年1月1日、ヤンゴン市内の病院で亡くなった。享年75、最後の言葉は「患者が待っている」だった。」

(以下次号に)

《今後の行事予定》

◇3月の本例会で予定していた茶道についての深尾香子さん(多摩みなみクラブ)の卓話は、4月本例会に予定していた同じく多摩みなみクラブ石田幸次さんとご一緒でお願いしました。石田さんのテーマは、ボランティア活動のファンダレイジングです。

◇5月は、恒例の富士山例会を計画しています。通常から一週間遅れの5/29-30(金・土)です。この頃までにはCOVID-19も収束していることを願うのみです。なお、5/30は横浜YMCAの会員総会です。出来るだけご出席よろしくお願いします。

◇既にご案内しました通り、今年 You & I コンサートは9月26日(土)に開催の予定です。10回目となる今年のコンサートをみんなで盛り上げましょう。お知り合いには早めにご案内を!

す三転テ我た稿たで会の例サラす過んいなでしれにつ▽
。浦勤イが。の。すや例会ム。ご。てら日。ま広か昨
タグでビク感提そがイ会はとも▽し日も。々感しがつ年
フロ北テテ謝供こ。べも台。ず今で本致機を染たりた2
ガ。Yイブでがで今。中風はた年し中し。過回。新
イバMにのすあお回ト止でかず度。方以ご束世遂し月
でルCな担。り助。のと中ろたはう世な外し。の界にい。
すエAく当▽。け編報な止うに天か界い何て兆中はコ中
。ユをて主寂何マ集告り。じな変。中のでいしでシロ国
新ヴ離は事しとン子。ま2。てり地一。でもまも経。エナ湖
しイれなをいか登は案し月開ま異日ワす食す見済にウ北
いれるら務ニ紙場ほ内たの催しのもイが。ベ。え活よル武
交ッこなめユ面。とが。例でたお早ズ。る▽な動るイ武
わジといて。の次ほ紙▽会き。かいの。今いをパス漢
り館に存くス体期と面普(北ま9げ終皆。野更中始ンは市
が長な在れに裁会困を段Yし月で息さ▽野味。めデあ
樂のりの。接を長感飾でとた末当をん我。中皆様ミつ患
し鴨山クし維としるあのが。クおほが。国戦々ッと者
みで下し中ラま持副て。れ交。恒。YOCCのしようの嗜好を
す。純た奈ブしで会しブのりば、恒例のしようの嗜好を
。さ後さア。まよいテ々々。の。移。コロにい。皆好を
ん任んク長しりまンな。移。コロにい。皆好を
ではが。年。原し。集。3。動。グ。まおさ。噴

(編集子)

編集雑感